

近松門左衛門寄進
法華和歌集

涌出品

序品

如是我聞

我聞くと傳ふる人の微かりせば争で佛の法を知らまし

方便品

諸法実相

津の國の難波のことも誠とは便りの門の道よりぞ知る

譬喩品

猶如火宅

年古りて朽ち行く宿に燃ゆる火は悟らぬ程の栖なりけり

信解品

淨佛国土

あだの花心をしめて眺むれば佛のやどにとものみ奴

藥草喩品

現世安穩

吹く風も枝を鳴らさぬ行未は散らぬ花をや宿に眺めむ

授記品

心尚懷憂苦

悟り行く人はふたりに成りにけり羨ましきに濡るゝ袖かな

化城喩品

從冥入於冥

頼むべし闇より闇に移るとも影に影そふ月も出でなむ

五百弟子品

不覺內衣裏

袖の上の露の迷ひをうち返し衣の裏の玉を見るかな

人記品

我願既滿

我が願ひ滿ちて嬉しきまどゝかな誰も望みのかなふ席に

法師品

法華最第一

春の山秋の野原を詠めすてて庭に蓮の花を見るかな

寶塔品

諸寶樹下

木の本や寶のとぼそ明く方に藪限りなき光をぞ見る

提婆品

皆因提婆達多

有りし昔われ導きし杣人を今日は仇とや人の見るらむ

勸持品

我不愛身命

諸人の命にかふる法なれば弘むるかひの無からざらめや

安樂行品

在於閑所

法の爲安く行くべき道や孰處人も問ひ來ぬみ山邊の里

父少而子老

打ちちかぶ親子ながらの姿こそ昔を悟る端となりけれ

壽量品

壽命無數劫

是れぞ誠佛の道に入りしより得てし命は盡くるものは

分別功德品

清淨之果報

浮世をば出でてし上に登り行く清き山路の限りなきかな

隨喜功德品

如是展傳教

傳ひ行く五十の末の流れまで御法の水を汲みて知るかな

傳_二車_一專

法師功德品

唯獨自明了

よそに知らぬ人のけしきはさもあらばあれ獨り心の月を見るかな

不輕品

我深敬汝等

二十餘り五つの文字に顯はれて佛の種は隠れざりけり

神力品

現大神力

十までの神の力と聞く御法げにぞ佛のしるしなりける

囑累品

如世尊勅

三度撫でて契りし君の勅なれば今日まで誰もその示教利喜

藥王品

如渡得船

渡守なからましかば湊川苦しき海も此れよりぞ知る

妙音品

衆寶蓮華

驚の山あまた蓮の開けしを驚きながら知る人ぞなき

觀音品

便得離欲

根に生ふる罪と聞きしも君か爲離るとするも嬉しかりけり

陀羅尼品

無諸衰患

衰ふる愁へやいづく法の道に拂ひぞ棄つる天の羽衣

嚴王品

善知識者

如何にせまし悪しき道をも善き方へ教ふる人の無からましかば

勸發品

作禮而去

馴れ馴れて涙の雨や曇るらむ歸る空なき鷲のみ山路